

## アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

1. 看護学分野に関する基本的な知識・技術・態度を有し、看護学および看護実践に関し強い関心と問題意識を持っている人。
2. より深い探求心を持ち研究課題に主体的に取り組める能力を有する人。
3. 地域社会における保健・医療・福祉と看護学の発展に寄与したいという意欲を持ち、自己の考えを的確に表現するとともに他者からも学ぶ多面的で論理的な思考ができる人。
4. 看護職としての将来の展望を持ち、看護実践者、看護管理者、看護教育者、看護研究者としてキャリアを重ねたいという意欲のある人。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。
2. 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。
3. 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。
4. ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。
5. 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

1. 我が国と地域の医療の発展と国民の健康と福祉に貢献しうる高度で質の高い看護を実践できる能力を携えた看護実践者を育成するために「共通科目」と「専門教育科目」を設定し「専門教育科目」はさらに「基盤看護学」「広域看護学」に細分し各看護領域の特論(主に講義)と演習を通して看護学を広く、深く学ぶ。
2. 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムとする。
3. 健康課題を見出し、科学的根拠をもとに実践する能力を養うため、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を身につける。
4. 人材育成の基盤となる保健・医療・福祉分野における諸課題や健康支援のあり方への理解を深め、リーダーシップ能力の醸成とともに論理的思考力を各科目の学修を通して培う。
5. 看護の対象を適切に理解し、その主体性を尊重した効果的で効率的な看護サービスを提供するための知識・観察力・判断力・コミュニケーション能力・応用能力を各科目の学修を通して培う。
6. 看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を身につけるため「特別研究」を置く。
7. 学修成果の評価については、シラバスにおいて授業科目ごとの到達目標および成績評価基準を明示したうえで、レポートや発表内容、ディスカッション内容、授業態度により総合的に行う。

2  
年  
次

1  
年  
次

## 共通科目

### 【選択】

看護教育特論  
チーム医療特論  
公衆衛生学特論  
地域包括ケア特論  
疫学保健統計学特論  
臨床心理学特論  
社会福祉学特論  
臨床栄養学特論

### 【必修】

研究方法Ⅰ（看護研究基礎）  
研究方法Ⅱ（看護研究応用）  
看護倫理学特論

選択3科目(6単位)  
+  
必修3科目(6単位)

## 専門教育科目



基盤看護学領域



広域看護学領域

### 【特論】

看護管理特論  
小児看護学特論  
成人看護学特論  
老年看護学特論

健康医療政策学特論  
ウイメンズヘルス看護学特論  
精神看護学特論  
産業看護学特論  
地域看護学特論

### 【演習】

看護管理演習  
小児看護学演習  
成人看護学演習  
老年看護学演習

健康医療政策学演習  
ウイメンズヘルス看護学演習  
精神看護学演習  
産業看護学演習  
地域看護学演習

指導担当教員特論1科目・演習1科目(計4単位)  
+  
他特論3科目(6単位)

## 特別研究

「共通科目」「専門教育科目」で修得した、幅広い視点と専門的な観点から課題を分析して、解決策を考案していく能力を用い、指導教員の研究指導を受け、研究課題等を科学的に探求し、修士論文を作成する。

(8単位)

# カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		授業形態	
		1年次		2年次		必修	選択	講義	演習
		前期	後期	前期	後期				
共通科目	研究方法Ⅰ（看護研究基礎）	○				2		○	
	研究方法Ⅱ（看護研究応用）		○			2		○	
	看護教育特論		○		○		2	○	
	看護倫理学特論		○		○	2		○	
	チーム医療特論		○		○		2	○	
	公衆衛生学特論		○		○		2	○	
	地域包括ケア特論	○					2	○	
	疫学保健統計学特論		○		○		2	○	
	臨床心理学特論	○		○			2	○	
	社会福祉学特論	○		○			2	○	
	臨床栄養学特論		○		○		2	○	
専門 教育科目	看護管理特論	○		○			2	○	
	看護管理演習		○				2		○
	小児看護学特論	○		○			2	○	
	小児看護学演習		○				2		○
	成人看護学特論	○		○			2	○	
	成人看護学演習		○				2		○
	老年看護学特論	○		○			2	○	
	老年看護学演習		○				2		○
	健康医療政策学特論	○		○			2	○	
	健康医療政策学演習		○				2		○
広域看護学領域	ウィメンズヘルス看護学特論	○		○			2	○	
	ウィメンズヘルス看護学演習		○				2		○
	精神看護学特論	○		○			2	○	
	精神看護学演習		○				2		○
	産業看護学特論	○		○			2	○	
	産業看護学演習		○				2		○
	地域看護学特論	○		○			2	○	
	地域看護学演習		○				2		○
特別研究				○	8			○	
合計（30科目）						14	52	-	

学位	修士（看護学）
修了要件	本研究科に2年以上在学し、共通科目において必修科目6単位を含め12単位以上、専門教育科目において研究テーマに関する領域の特論2単位及び演習2単位の計4単位かつ他特論6単位を含め10単位以上、特別研究8単位を含めた合計30単位以上を修得し、かつ修士論文等を提出し審査及び最終試験に合格すること。
1学年の学期区分	2学期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

## 授業時間

平日	6時限	18:00～19:30
	7時限	19:40～21:10
土曜日	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	3時限	13:00～14:30
	4時限	14:40～16:10

# 特別研究における各領域の概要

看護管理	看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）、看護組織の特徴と組織経営、組織文化の醸成、人的資源管理（リーダーシップ、人員配置、個人のキャリア発達と組織）、など、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の研究課題の明確化を図る。領域の演習で洗練した研究疑問に基づき、修士論文完成までの研究課題の明確化、研究計画立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、発表を行うための基礎的能力を育成する。
小児看護学	小児各期にある子どもと家族にまつわる健康問題を検討し、小児看護学の発展に寄与する研究課題を明確化する。探究すべき研究テーマに沿って研究計画書を作成し、データ収集と分析、データに基づいた考察、論文作成、発表等の一連の研究プロセスを踏む。学術的意義のある修士論文を作成する過程において必要な基礎的研究能力を醸成する。
成人看護学	健康障害に対する医療を受ける人の意思決定支援、疾病や障害と共存しながら生活する人のセルフマネジメント支援などの成人期にある人とその家族の抱える健康問題やその看護について、また、臨床における倫理的な問題や健康障害をもつ人の人権や尊厳を尊重する看護などの各自の課題を探求し、リサーチクエスチョンから論文作成までのプロセスを通して、研究者としての基礎的能力を涵養する。
老年看護学	認知症ケア、高齢者の終末期ケア、身体拘束、老年期における看護の倫理的課題、在宅療養を支える家族ケアなど老年看護における研究課題の明確化をはかり、研究計画書の作成、研究倫理委員会への申請、倫理審査を受け、データ収集、分析、考察、論文作成、発表における一連のプロセスを身につける。
健康医療政策学	全ての看護・公衆衛生学研究は健康医療政策学的側面を有していることを基軸とし、疫学・統計学的リスク分析をはじめ、シミュレーション評価、医療経済学的分析などを用いて、健康医療政策学に貢献しうる分析アプローチを習得し、修士論文の指導を通じて研究課題・リサーチクエスチョンを究明しようとする研究遂行の意欲と能力を高める。

# 特別研究における各領域の概要

ウィメンズヘルス 看護学	ウィメンズヘルス全般、思春期から更年期・老年期各期の健康、周産期に関連する健康、母子を取り巻く家族や地域に関するテーマをもとに、研究課題の明確化、量的・質的研究方法を用いた研究計画書の作成を行う。各自の研究フィールドでデータ収集を行い、分析、論文作成、プレゼンテーションができる研究能力の育成を行う。
精神看護学	リエゾン精神看護、サイコオンコロジー、看護師のストレスマネジメント、発達障害、精神障がいをもつ患者や家族の支援等、精神看護分野に関する各自の課題を探求し、修士論文のプロセスを通じて看護研究者としての基礎的研究能力を養う。尚、修士論文プロセスは研究課題と研究デザイン・方法の明確化、研究計画書の作成、倫理審査委員会の申請・データ収集、量的・質的分析、考察等修士論文の提出、口頭試問を含む。
産業看護学	働く人々の健康と安全、働く環境を一体的に捉えつつ、一方で働く人々を地域の生活者としても包括的に捉えることで、地域とさまざまな組織の連携の重要性が問われている現状にある産業看護、公衆衛生看護の幅広い課題のうち、受講生が明らかにしたいテーマを修士論文としてまとめる。またそのプロセスにおいて、量的・質的データともに、科学的な取り扱いを行うための解析手法をマスターし、研究能力を高める。
地域看護学	地域で生活するあらゆる健康レベル、発達段階の人々を対象に、健康の保持増進とQOLの向上を目指し、現場の看護実践に寄与する研究を行う。具体的には療養環境の調整、専門職者の継続教育と連携、地域アセスメントに基づく地域づくり等、受講生の課題解決ニーズに応じた研究テーマに取り組む。研究手法は介入効果に関する量的な評価や行動科学に基づいた質的評価分析も検討し、研究能力の向上を図る。

# 学費等

## 1年次

	看護学研究科（修士課程）						備考
	看護学専攻						
	本学卒業生・卒業見込者		和洋女子短期大学・短期大学部卒業生		左記以外		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
*入学金	0	-	87,500	-	175,000	-	入学時のみ
授業料	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	前後期2回に分納
施設費	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	前後期2回に分納
入学手続時納入金	410,000	-	497,500	-	585,000	-	入学時
後期分納入金	-	410,000	-	410,000	-	410,000	後期（納期10月5日）
初年度納入金	820,000		907,500		995,000		

\*入学手続時のみ

## 2年次

	看護学研究科（修士課程）	備考
2年次納入金	820,000	年額（前後期2回に分納）

## 修学に係る経済的負担の軽減を図るための措置

学外の奨学金			
奨学金名	募集時期	貸与・支給金額	貸与・支給期間
日本学生支援機構 第一種：無利子 第二種：有利子 第一種・二種の併用可	年1回、4月 *緊急時随時受付可	貸与、月額 第一種 大学院修士：5万、8万8千より選択  第二種 大学院：5・8・10・13・15万より選択	卒業までの 最短修業年限

その他学外奨学金については、ポータルサイト、北館2階学生課奨学金掲示板等で都度お知らせします。

### 長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情で、通常の学生よりも1年間または1学期間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が制限されるため、大学院修士課程および博士前期課程の標準修業年限である2年間を超えた在学をしなければ課程を修了することができないと考える者に対して、申請に基づき、大学が審査し、2年を超え、4年以内の学期を単位とする標準修業年限を超えた在学をあらかじめ認めたと上で在学し、計画的に課程を修了することにより学位の取得を認める制度です。（ただし、審査の結果、認められない場合もあります。）履修期間により、学費等も分割納入が可能です。

### ティーチング・アシスタント制度

本学では、学士課程の授業の充実と大学院生の修学の便宜とを考慮して、ティーチング・アシスタント（TA）制度を実施しています。授業をより円滑に進め、学生の理解を深めると同時に、院生の経済的支援という役割も果たそうという趣旨で行っています。